

命のしるし(第五回)

小侯麦穂



〔前号のあらすじ〕
エレは、死病ツアアラアトで死んだ子の骸を抱く母親を見た夕方に熱を出す。熱は下がるが、シエルツとザックが、医者と呼ばれ出かけている間に、誘拐されてしまう。仕組んだのは医者で、生贄になる我が子の身代わりを探す夫婦に頼まれたのだ。すぐさまシエルツたちは夫婦の元へ向かいエレを救い出すが、牧師の言葉「全てのものに役割がある」を希望としたエレは、生贄になる子の代わりになるのが、自分の「やくわり」だと決意するのだった。



絵 長浜めぐみ

5. しるし〜祝福〜

岩壁に張りつく細い山道を、馬車を先頭に立てて慎重に進む。エレはシエルツの馬に同乗し、ザックが最後尾に付いていた。

この先は、美しくも険しい山々のつらなる、キンゼリー